



初めてのバス通学

中川小学校と松崎小学校の交流授業が行われ、来年度から松崎小学校へ通学する中川小学校の児童が初めてのバス通学を体験しました。(2/12)



最後の運動会で（平成21年9月19日）

中川小学校は

松崎小学校と統合されず。

中川小学校の沿革

中川小学校は明治6年、明倫館第2支校格致舎（南郷村平福寺仮借）として創立されました。その後、那賀や建久寺へ移転し、明治42年3月、現在の場所へ新校舎が建築されました。

昭和22年、新学制により中川村立中川小学校、昭和30年には町村合併に伴い松崎町立中川小学校となりました。

創立以来136年の長きにわたり、地域コミュニティの拠点としての役割を担いながら、多くの優れた人材を輩出してきましたが、平成22年3月23日の閉校式を最後に長く刻まれた歴史に幕を閉じ、4月1日から松崎小学校と統合されます。



（堤 達男氏製作）

校歌

作詞 須田 昌平
作曲 山下半三郎

一 那賀川の水 清らかに
とよ春の歌 うたうてる
木の芽草の芽 のびゆくように
心も体も すこやかに
学ぼうくらの 中川小学校

二 天城のみねの 朝空に
かがやく希望が わいてくる
むかしの人の ほまれを胸に
明日の力を さずくため
はげむぼくらの 中川小学校

三 野山のみどり 美しく
花いまいさと 咲きにおう
まごころ明るく 手をとり合つて
声もびびくよ 窓々に
楽しいぼくらの 中川小学校

（昭和35年10月制定）

『中川三聖』

幕末、三余塾を開いた漢学者 土屋三余先生、そこに学んだ伊豆の先覚者 依田佐三平翁、十勝開拓の父 依田勉三翁。中川地区が輩出した郷土の偉人中川三聖です。

中川小学校の子どもたちは、郷土の誇りである三聖の業績を後世に伝えようと、毎年、三聖祭で学習の成果を発表してきました。

三聖を勉強する中で学んだ三余先生の「思いやりの心」、佐三平翁の「誠実な心」、勉三翁の「あきらめない心」は、いつまでも忘れられることなく、子どもたちの胸に残ることでしょう。



三聖祭（平成21年11月22日）



昭和53年まで使用されていた旧校舎



中川小学校の校訓であり、学校是でもある「至誠」（依田佐三平翁書）

生涯学習だより(社会教育事業報告)

松崎町の社会教育は、「学習の生涯化」「学習の地域化」を基本理念としています。

住民の皆様が、自ら課題を解決し、自己を高めていくために、学習活動の場を提供してきました。

本年度は、全8教室を実施しました。

【問合せ】
教育委員会(42) 3971

初心者の方でも気軽に参加し、楽しめる内容ばかりでした。



いづこいし教室(6月実施)
講師：青森千枝美さん

石の上に置いたイラストをコーティングして、きれいな作品に仕上げました。



楽しい生け花教室(年4回実施)
講師：文化協会華道部

ペットボトルなど、廃材を利用する「エコ」の発想を取り入れ、季節の花を活けました。



始めよう!読み聞かせ(9,10月3回実施)
講師：星野美雪さん

絵本の楽しみ方や、絵本を見るポイントなどを学習しました。参加者は読み聞かせの実践も行いました。



漆喰こて絵体験(9月実施)
講師：長八美術館職員

鏝で漆喰を塗り、色をつけて仕上げました。作業をとおして「名工・入江長八」の文化に触れました。



陶芸教室(7,8月4回実施)
講師：鈴木義弘さん

湯のみや茶碗、お皿など、参加者が自分の好きな作品を作りました。作品は現在、家庭で活躍中です。



手作り年賀状教室(11,12月5回実施)
講師：佐藤美晃さん

木版画(多色刷り)とステンシルの画法を使い、手作りの年賀状を作成しました。



松崎歴史探検(11月2回実施)
講師：近藤二郎さん

江戸時代後半から戦後にかけての松崎の移り変わりについて、依田家の盛衰を中心に学習しました。



初心者のための絵画教室(10月5回実施)
講師：矢部芳治さん

スケッチをしながら、光と影の表現方法や色の濃淡の使い分けなど、基本的な技法を学習しました。

講演会・教養講座



千田やすし氏(右)
桂文福氏(左)

松崎小PTA教養部と教育委員会の共催で、「桂文福一座公演」を開催しました。落語や腹話術、漫才で、会場は笑いの渦に包まれました。



神奈川県立生命の星・地球博物館外来研究員
門田真人氏

「南から来た火山島：伊豆」をテーマに教養講座を行いました。町内で採取した化石をもとに、伊豆半島の成り立ちについて学習しました。



TBSドラマプロデューサー
石丸彰彦氏

「夢の実現に向けて」を演題に講演会を実施しました。自身の経験だけでなく、ドラマ作りの裏事情をユーモアたっぷりに話してくれました。



棚田サミット便り 第1号

第16回全国棚田(千枚田)サミットが松崎町で、 10月22日(金)・28日(土)に開催されます!!

第16回全国棚田(千枚田)

サミットが、松崎町で開催されること決定してから、地元石部区や観光協会、商工会など各種団体に協力をお願いし、現在準備を進めています。

サミットでは、全国から、

2日間で延べ1,300人を見込む参加者に、石部の棚田や松崎の町並みをご覧いただき、意見交換を通じて未来に向けた棚田保全を考えます。



これから毎月、棚田サミットに関する情報をお知らせします。棚田サミットが盛会に開催できますよう、皆様のご協力をお願いします。

棚田サミットって？

棚田サミットには2つの目的があります。ひとつは、全国各地で「日本の宝である棚田を未来にも残したい!」と、思っ活動する人たちのネットワークづくりです。

さまざまなテーマで棚田保全に關した勉強をする分科会や、交流会、現地の棚田見学で地域性の相違を感じるなど、想いを同じくする人たちが一堂に會し、地域の情報を交換し、連携を図ります。

もうひとつは、棚田サミットを開催した地域が活性化化するきっかけづくりです。過疎化の問題は、棚田だけでなく農林漁業など私たちの

生活の根幹に關わる文化全体、中山間地域共通の課題です。

地域文化の盛衰は、地域の活力のバロメーターと言つてもいいかもしれません。地域を元気にするまちづくりを、その地域の人たちが考え、参加し、足並みを揃えて実行していく流れを、棚田サミットを機に作ればと思ひます。

石部棚田保存会から



高橋周蔵 会長

石部の棚田は、生産効率が悪く採算が合わないため、耕作放棄され原野と化してしました。稲作文化の原点であり、多面的機能をもつ棚田を後世に伝え残そうと棚田保全の機

運の高まる中、平成12年、原野と化した棚田を復田し、都会の方たちとのふれあい交流の場として地域を少しでも元気にすることが出来ないだろうかと取り組んだ棚田保全事業でしたが、非常に勇気のいる決断でした。

保全の認識を共有する有志を中心に、区民が一丸となつて取り組み1・6畝の棚田が甦りました。毎年延べ約1,000人の棚田オーナーの方たちが来訪し、確かな交流の芽生えが出来つつあります。

棚田保全に汗して取り組む姿が評価され、富士山・南アルプスが眺望できる石部の棚田で、ぜひサミットを開催したいとの主催者の要請を受け、お受けしました。皆様のご理解とご協力をいただき、松崎らしいサミットが開催できることを願っています。

棚田くらぶ(仮称) 会員募集

棚田を体験学習の舞台として活動する「棚田くらぶ」の会員を募集します。4月から



毎月1回程度、田んぼでの作業や生き物観察、わら細工づくり、地元の文化や環境などさまざまなテーマで学び、講師を招いての勉強会も予定しています。

棚田文化を伝え、続けるために、継続的に行う活動です。みんなで考えながら、地域とともに楽しく学びましょう!
対象 小学4年生以上
募集 小学校を通して募集します。

【問合せ】
企画観光課(42) 3964

俳句でまちあらし

「俳句の町づくり」とは？

町の基幹産業である観光は、平成3年をピークに低迷を続けています。

現在の観光は、ただ観光地を巡るツアー旅行から、趣味を追求するために目的地を訪れる傾向に変わってきています。

松崎町商工会では、平成18年度から県、町の補助を受け、新たな交流人口の創出を図るために「俳句の町づくり」を行っています。



最近、商店街などを歩くと、俳句が掲示された電気行灯（あんどん）を見かけますが、これらの行灯もこの事業によるものです。

皆様も、この事業をご理解いただき、「俳句の町づくり」推進にご協力をお願いします。

こうした取組みにより、町には、豊かな自然や歴史、なまこ壁や棚田など魅力的な資源が多く残っています。

これらの資源を活用し、町では、「スケッチの町」や「左官の町」、「シーカヤックの町」として情報発信することによって、これらの趣味を持った方たちの訪れるきっかけづくりをすることで、来客数の増加を図ってきました。

「俳句の町づくり」も、俳句という趣味を持つ全国の愛好者へ、魅力的な句材の提供できる町であることを情報発信し、俳句づくりが楽しめる環境を整備することによって、更なる交流人口の拡大を図ります。

「俳句の町」実現化事業

俳句行灯・投句箱の製作・掲示

町内の観光施設や商店街などに電気行灯100基と通年で作品を募集する投句箱を15カ所に設置しました。

投句箱に備え付けのはがきに俳句を書いて投かんすると、年3回行われる審査で評価され、優秀者には記念品が贈られます。



町内に設置されている行灯と投句箱

花と浪漫の里俳句大会

町の自然や、歴史的建造物など句材に恵まれた町内を見て回り、思い思いの作品2句を出品していただく当日投句と、句を思いついた時に、郵送などで投句する事前投句を実施しています。

入賞作品100句は、町内中心街路や観光施設等に設置されている電気行灯に、2カ月間掲示されます。

【開催日】 3月24日

【投句料】 1,000円 (2句)

【選者】 大串 章 (「百鳥」主宰)

黒田 杏子 (「藍生」主宰)

小澤 實 (「澤」主宰)

句会・吟行ツアー

地域の新しい観光商品開発を目的に、全国の俳句愛好団体へ松崎町で句会を開催するよう提案しています。

このツアーは、1泊2日で開催され、1日目に町内を散策しながら作句し、2日目に地元俳句愛好者と句会を開催しています。



静岡市と地元の俳句愛好会での交流句会

今後の展開について

鈴木 基 事務局長

「俳句の町づくり」事業も、今年で4年目となり、回を重ねる毎に、参加者が増えていきます。これまで俳句にゆかりのない松崎町が「俳句の町」として定着するために必要なものは、「継続」と「おもてなしの心」だと思っています。

町に住む方にも、俳句に関心を持っていただき、訪れる方と俳句を通じ、交流していただくことが重要だと思っています。俳句をきっかけに、訪れた方が、松崎町に愛着を持つていただき、再び訪れてくれるようになることが、この事業の目的だと思っています。

まだまだ事業は始まったばかりですが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

【問合せ】

商工会 (42) 0470

農業委員会の委員が

決まりました

任期満了に伴う松崎町農業委員会委員選挙が、16日に告示され、無投票で新しい委員が決まりました。新委員の皆様には、農地の有効利用の調整や耕作放棄地対策等、町の農業振興のためにご尽力いただくこととなります。

氏名	担当地区
山本好一	松崎・道部
石田信稔	江奈
成川静雄	桜田
鈴木木一弘	伏倉・宮内
山本総悟	池代・小杉原・明伏
船津幸雄	大沢・峰輪・船田
河浦あさ子	門野・南郷・吉田
藤井昭一	建久寺・那賀
佐藤美晃	山口・指川・金沢
齊藤誠吾	松尾・中村・野田
齊藤陽太郎	峰・八木山
土屋長一	岩地・石部・雲見

任期：平成22年3月22日～平成25年3月21日

農業委員会の役割と農地法の手続き

「農地」は、食料・農業にとって、かけがえのない財産です。

しかし、いったん宅地などに転用されると再び農地として利用することが困難となります。

このため、農業委員会では、地域における優良農地の確保を目的として、農地の売買や貸借などの権利移転申請、農地を宅地など他の目的に変更する転用申請等について、農地法等の法律に基づいて判断しています。

また、地域農業の振興を図るため、認定農業者への支援、農地の貸し借りの促進、農家の声を行政、政策へ反映する要望等のとりまとめ、農業者年金の手続きなど農家の相談窓口として活動しています。農地法の手続きが必要となる場合は、農業委員または産業建設課へお気軽にご相談ください。

【問合せ】
産業建設課（42）3965

松崎文芸

俳句

春寒の曲りくねりし山の道
ほつれ髪顔にいくすじ風邪の妻
退院の爺の笑顔やさくら草
あけぼのや駐車場の凡て霜を置く
あたたまり外気にふれて冴返る
道照らす花をさし出す棚アロエ
老いぬれば何するてなく春を待つ
火星見る空のドラマや冴返る
閑枝に近し母校や冴返る
厨ごと寒の戻りか身に沁みる
里訪へば兄の愛でにし梅真白
彩雲に浄土はありぬ冴返る
寒もどり腰の痛みに脳まさる
雪被るアルプス染めて夕日かな
春山の切り株の先光る海
山頂の宮の賑わい梅早し

山本武男
小林一男
佐藤享
細谷金治
石田宏
山本一詞
稲葉文宇
稲葉菊恵
依田ふじ枝
土屋規矩子
吉岡うた子
夏目和子
鈴木すみ江
清水高子
松田美智子
斎藤みつ子

役場閉庁時間変更のお知らせ

平成22年4月1日から、役場の閉庁時刻を下記のとおり変更します。

【閉庁時刻】
17:00

- ※ 現行17:15から15分短縮されます。
- ※ 開庁時刻は8:15で、変更はありません。

【変更理由】

勤務時間の短縮について、人事院勧告がなされたため、国の措置に準じて変更するものです。

【問合せ】

総務課（42）3963

～ まちのできごと ～



2/1 冬の風物詩「岩のり」採り

岩地地区では、岩のり採りが解禁となり、地域の住民約30人が、合図とともに一斉に岩に付いた海苔を手際よく収穫しました。



2/2 松崎幼稚園に大型タペストリー寄贈

土田喜和子さん（江奈）が、松崎幼稚園へ、約3カ月かけてヒマワリの絵柄を縫い合わせ製作した、大型タペストリーを寄贈しました。



2/7 親子スポーツフェスティバル(総合グラウンド)

親子約50組が参加し、ティーボールで打球の飛距離を競う野球など親子が協力する3種目の競技で、家族のきずなを深めました。



2/11 鬼射まつり(日吉神社・池代)

江戸時代中期から伝わる地域の厄払い行事「鬼射まつり」が行われ、弓太郎（ゆんだろう）が約20m離れた的を目標けて弓を射ました。

2月中旬から、那賀耕地の「田んぼをつかった花畑」では、アフリカキンセンカが咲き始めました。これからの季節、那賀川沿いには、花見見物のお客様がたくさん訪れます。町内の観光関係者から「岩科川沿いの桜をもっとPRしてほしい。」という話を聞きます。

また、花畑を訪れるお客様からは、「色とりどりの花も良いけど、昔懐かしいレンゲ畑が見たい。」という声をいただきます。

そこで、各河川沿いの田んぼの耕作者の方にご協力をいただいて、那賀川沿いは、6種類の花が咲く花畑へ、岩科川沿いは昔懐かしいレンゲ畑へと、できないものかと思えます。

レンゲは春を代表する花で、観賞するだけでなく、花の蜜は、ハチミツ

岩科川沿いをレンゲ畑に

の蜜源となります。

町内の飲食店や宿泊施設で、レンゲのハチミツを使った料理をお客様に「松崎でしか味わえない特産品」として提供することで、地域と差別化を図ることができ、集客に繋がると思えます。

花を通じ、町内の農業者、観光業者が連携し、新たなものを創り出すことが、私の提唱する「平成の花と口マンのふるさとづくり」です。

どんな事業も定着させ、集客に結び付けることは一朝一夕にできることはありませんが、活気ある元気な松崎をつくるために、ご協力をお願いします。

松崎町長

齋藤文彦



町長室からこんにちは ③

21世紀 松崎町三つの実践運動「あいさつ・返事・後しまつ」

町の人口と世帯

(平成22年1月31日現在)

()内は前月比

総人口 8,084人 (-19人)
 男 3,822人 (-10人)
 女 4,262人 (-9人)
 世帯数 3,157戸 (-1戸)
 転入 13人 転出 17人
 出生 3人 死亡 18人

町の交通事故

平成22年1月31日現在

()内は前年同月比

人身事故 0件 (-5)
 物損事故 13件 (+6)
 死者 0人 (±0)
 傷者 0人 (-5)

地区	氏名	年齢	届出人
峰	佐藤與四男	87	貞子
南区	平沢東	73	妙美
櫻田	藤池榮子	92	泉
石部	高橋正作	86	民吉
東区	山本福松	85	安良
大澤	関敏之	72	睦子
櫻田	佐藤昭二	82	泰市
東区	高橋禮子	59	和枝
池代	小林あい子	85	誠
船田	渡辺憲	78	岩夫
伏倉	松本とめ	89	金次
東区	近藤静枝	96	安太郎
江奈2	大房あめ	102	汎

戸籍だより (1月届出分)

おめでとうございます(出生)

地区	氏名	性別	保護者
北区	ていあ 姫愛	女	石田良
船田	りん 綾	女	谷口一也
道部	まある 真歩	女	岡村一郎

おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
石部	松本せつ	92	定弥
江奈2	高橋保	92	正義
江奈1	齋藤榮治	82	克敏

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

保健師だより

保健事業の紹介①

「こどもふれあい体験授業」

今年で三年目となるこの事業は、松崎中学校の生徒を対象に実施しています。幼い子どもとの交流や、妊娠シミュレーターによる妊婦体験を通し、思春期の生徒に、子どもへの愛着を深めてもらうことを目的としています。

授業終了後に参加した中学生を対象としたアンケートでは、「もし自分が子どもができたら一生懸命かわいがろうと思う。」「大変な思いをして産んでくれた母に感謝すべきだと思いました。」「など心温まる感想が書かれました。」



姉妹都市通信

帯広市から

室温22度

この原稿を書いている2月上旬は、1年のうちでもっとも寒い時期です。

2月4日は、暦の上では、これから春に向かう「立春」でしたが、この冬一番の冷え込みとなるマイナス22・4度を記録しました。

冬は冬らしいのが順調な天候であって、夏も良い天候が続き、豊作になるということから、農家では、昔から「冬寒ければ夏暑し」と言われ、冬の寒さを歓迎する風潮があります。

しかし、開拓時代はそうも言っていないようでした。

明治15年に晩成社の先見として一人帯広で越冬した鈴木銃太郎は、『越冬日誌』の中で帯広の冬をこう書き綴っています。

「明治十五年十二月十三日、水、昨夜深更寒気酷烈、足冷

工、安眠スル能ワズ、曙二起床、寒温器零度ヲ下ル事十七度」

今の市役所の室温は22度に設定されています。

快適な冬の生活を送っている私たちが、いつもよりシバシバした朝に「今年は豊作だ」と話すのは、寒さで夜も眠れなかった鈴木銃太郎に少し申し訳ない気がいたします。

3月には日中の気温がプラスになり、少しずつ雪解けがすすんでいきます。



氷点下の環境で見られる樹氷